

Trinity 宇宙県

□ 中 ■

隕石が二万〜三万年前に衝突してきたと推測されるクレーター地形が広がる。飯田市中心部から車で一時間半ほど山道を上り、標高千九百メートル付近のしらびそ高原(同市上村)にたどり着くと、クレーター近くの駐車場で赤いライトがちらりと光った。

神奈川県鎌倉市の会社員堀越勝さん(金)が、望遠鏡にパソコンをつないでいた。赤い明かりは、暗さに慣れた目を刺激しないためだ。狙った天体を望遠鏡で自動追尾させ、数分間の露光の撮影を繰り返す。天の川とさそり座を撮りに来た堀越さんは「最近ほ、

星空の魅力

天体の観測や撮影にコンピュータを使う人も多いですよ」と話した。

その隣では、口径三十センチ以上の太い望遠鏡があった。持ち主の同県相模原市の会社員宇高勉さん(金)に「見てみませんか」と促されてのぞくと、木星がビー玉の大きさでくっきり見え、薄茶色のしま模様が見えた。

堀越さん、宇高さんは「しらびそ高原は星見の聖地だよ」と口をそろえる。新月前後の暗い夜には、愛好家らの車が駐車場にずらりと並ぶ。しらびそ高原を含め、伊那市から阿智村までの伊那谷地域は、旅行予約サイト大手の楽天トラベルが昨年に発表した「星空鑑賞旅行に人気のスポットランキング」で一位に輝いた。星まつりが有名な原



しらびそ高原から見た星空(2017年4月30日22時19分から30秒
ずり撮りした画像120枚を合成) = 飯田市で(浅井慶撮影)

愛好家が集う「聖地」

村などの八ヶ岳エリア、諏訪・茅野市などが続き、上位三位を県内が独占した。

中でも人気なのが、阿智村

の観光協会や宿泊施設などでつくるスタービレッジ阿智誘客促進協議会主催のナイトツアール。スキー場のヘブンスそ

のほらを会場に、プロジェクトアールは開始した二年夏に六千人が訪れ、徐々に知名度が高まって、昨年夏は中京圏の観光客を中心に十一万人が楽しんで、星空を楽しむ。

阿智村は、環境省が二〇一〇

六年に実施した全国星空継続観察で、星の観測に適した場所の一位になった。ナイトツ

を見るまでの過程をエンターテインメントとして演出して、気軽に楽しく参加できるようにしている」と人気の理由を分析し「これからも新たな企画を考え、さらに満足度の充実に努めたい」と話して

現在の、恋人の聖地として若者の人気も集める。協議会の松下仁事務局長(三)は「星(服部桃)



暗さに慣れた目を刺激しないよう赤い光で照らしてセットされた望遠鏡
飯田市上村のしらびそ高原で